

1 題材名 曲想の変化を楽しもう（6時間）

教材名 鑑賞（鑑賞）「ハンガリー舞曲 第5番」

表現（歌唱）「思い出のメロディー」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A表現 (1) 歌唱 ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)

B鑑賞 ア、イ

[共通事項] (1) ア 音楽を特徴付けている要素：リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、調、フレーズ

音楽の仕組み：反復、変化

思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音の重なり

(1) 題材観

本題材では、楽曲から感じたことと、旋律や音の重なりなどの音楽を形づくっている要素との関わりを考えながら曲想の変化を捉えることをねらいとしている。

曲想が音楽の構造によって生み出されることや、曲想が変化していくことの面白さに気付かせていく。鑑賞では、音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れ、音楽を形づくっている要素の関わり合いに注目しながら、曲想やその変化を感じ取って音楽を聴き、友達と話し合う活動などを通して音楽を聴くことを深めていく。

さらに、歌唱では2つの旋律の重なり方から「音の重なり」に注目し、曲想にふさわしい表現の工夫のよさを感じ取らせていきたい。また、話し合い活動の中で旋律や強弱などを手掛かりにして、作曲者の意図を考えるようにしながら学習を進め、曲に対する理解を深めていく。

(2) 指導観

<教材について>

鑑賞教材「ハンガリー舞曲 第5番」は、旋律の反復や変化を捉えたり、速度や強弱、調の変化に伴う曲想の移り変わりを感受したりしやすい教材である。拍や旋律に合わせて体を動かしたり指揮のまねをしたりするなどの活動を取り入れ、曲想の変化を実感させたい。本教材は、児童にとってなじみがあり、曲もさほど長くないため、聴くときに注目するポイントを変えたり、指揮で表現する活動を取り入れる等、繰り返し聴く時間を設けたりすることで、曲想の変化と音楽の構造との関わりについて理解させるようにしたい。

歌唱教材「思い出のメロディー」は、旋律が言葉のまとまりや語感を生かしてつくられているため、歌詞と旋律とが一体となって生み出す曲想をしっかりと味わいながら、それぞれの部分にふさわしい歌い方を工夫するのに適した教材である。前半（ア）は懐かしい情景を思い起こすことができる歌詞の内容で、“愛の歌”という歌詞に込められた思いを感じ取ることができる。後半（イ、ウ）は、心と心のやり取りを連想させる情感豊かな歌詞の内容である。

曲はA－B－A’の三部形式で、Aは“そよぐ風”“さざめく波”などの語感や旋律のまとまりを生かし

た斉唱、Bは和声的なよさを生かした二部合唱、A'は再び斉唱になってから二部合唱で締めくくられる。曲想の移り変わりを捉えて、それぞれの部分にふさわしい歌い方を工夫する際に、演奏形態の違いを生かすことで、より豊かな表現が可能になる。また、歌詞と音楽とが相互に働きかけて生み出す豊かな曲想をしっかりと味わいながら、学習に取り組ませていきたい。

<研究の視点との関わり>

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を支えた授業づくり

②既習を生かして学びを深める授業づくり

本題材では曲想の変化を感じながら自分たちがそれぞれの思いをもってどのように歌いたいかを深めていく。児童は5年生の「夢の世界を」や「キリマンジャロ」の学習で、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いによって、音楽の表情がより豊かになることを味わい、曲想の変化を感じ取りながら歌ったり、演奏したりすることを学習してきた。6年生では引き続き、音楽を形づくっている要素が一体となって醸し出す曲想を味わいながら、鑑賞では曲想の変化を生み出している要素を体の動きから関連付けていく。歌唱では、曲名や歌詞から思い出を振り返りながら曲想を生かした表現の工夫につなげていきたい。

また、曲想を各々が考えていく上でも、今まで学習の中で触れてきた歌詞や旋律線などの掲示も生かしながら、本題材でも生かせるようにしたい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

「個別最適な学び」に関しては、歌唱では児童が歌詞や旋律、強弱などからどのように歌いたいかを考えさせたい。今回の指導ではいきなり個々で行うのではなく、**ア**の部分の歌い方の工夫についてクラス全体で共有し、**イ**の部分をグループに分かれて話し合う形にする。

「協働的な学び」に関しては、児童を6～7人のグループに分けた活動を取り入れる。グループ活動では、どのように歌いたいか自分が思ったことを仲間に伝え、歌い試しながら考える場としたい。グループ編成に関しては、グループの中で主旋律と副次的な旋律に分かれるので安心して練習や話し合いができるように担任と相談をしながら行う。またグループで歌うとなるとどうしても主旋律のパートにつられてしまう児童が多いため、副次的な旋律を入れた伴奏をタブレットに録音し、グループでの活動を行えるようにする。

【視点3】評価の在り方

曲想の変化を感じ取っているかに関しては、授業中の発言内容やワークシートを使って評価を行っている。また、小学校から中学校への系統的な学び方を身に付けるために、中学校の教科書に記載されている

「パートの役割と重なり方」の表を基にワークシートを作成した。ワークシートには感じたことや曲の特徴を記入するようにする。さらに、表現の工夫の仕方を記述する項目をつくり、発言内容とあわせて個々の思いを見取っていく。曲の構成に関しては全体で共有し理解を深めさせたい。本時に関しては、主体的・対話的で深い学びができるように、グループごとに取り組む。自分の考えや思いを相互に伝え合い、実際に歌ってみることで新たな発見を見出すことができる。曲に対する思いが学習の前後でどう変容したのかを児童自身に感じさせたい。

3 題材の目標

○曲想及びその変化と、強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、思い

や意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。
(知識及び技能)

○音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うか思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
(思考力、判断力、表現力等)

○曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる曲想の変化を味わう。
(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知曲想及びその変化と、音の重なりなどの音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑) ②知曲想と音の重なりなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(歌) ③技思いや意図にあった表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。(歌)	①音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(鑑) ②音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聴き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌)	①曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌・鑑)

5 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）（本時5/6）

次	時配	◎ねらい　○学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態
◎曲想の移り変わりを味わいながら、「ハンガリー舞曲　第5番」を聴く。				①知 （記述・発言・聴取）		
第一次	第1時	○アとイの曲想の違いを感じ取る。 ・ ア と イ の部分聴き、どのような感じがしたかをワークシートの表に書く。 ・音楽に合わせて体を動かす。 ・指揮のまねをする。 ○感じたことや気付いたことをワークシートの表に書く。 ・友達と伝え合う。 ・全体で意見を共有する。 ☆〔リズム　速度　旋律　フレーズ〕	○感じたことや思い浮かべた様子などを様々な表現を引き出すために、自由に書くよう伝える。 ○速度や強弱の変化に気付くことができるように、音楽に合わせて体を動かしながら聴くようにする。 ○児童の発言を「速さ」「強さ」「調」「くり返し」「変化」に整理して板書する。 ・ ア と イ の曲想の違いに気付き、振り返りをワークシートに書く。			
	第2時	○曲の構成を確認する。 ・ ア → イ → ア の構成になっていることを知り、全体を通して聴く。 ○曲の中で最も印象に残ったところについて、ペアやグループで自分の考えを伝え合う。 ☆〔リズム　旋律　速度　調　フレーズ〕	○4つの旋律の速度や強弱、調の変化などの特徴を捉えるようにする。 ○アが短調、イが長調であることを確認する。 ・友達の考えを聞き、互いの考えを認め合う。			
◎曲想の移り変わりを味わいながら、思いを込めて「思い出のメロディー」を歌う。						

第二次	第3時	○範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・感じたことを歌詞の内容にも触れながら話し合う。 ○曲想の違いについて考える。 ・アの曲想、音楽の構造及び歌詞の内容などについて、感じたことや気付いたことをワークシートに書く。 ○アの曲想を生かした表現の工夫を学級全体で考える。 ☆[旋律 強弱 フレーズ]	○感じたことや気付いたことを自由に発言するように促す。 ○話し合ったことを踏まえて、ワークシートにまとめるように伝える。 ・音の高さや強弱記号を根拠に考える。 ○歌い試しながら表現の工夫を考えるように伝える。 ・感じたことや気付いたことの振り返りをワークシートに記入する。	②知 (記述・発言・聴取)		
	第4時	○「思い出のメロディー」を合唱する。 ○どのように歌いたいのかを考え、2部合唱の練習を行う。 ○本時の学習を振り返る。 ☆[旋律 強弱 音の重なり]	・発声や曲想の違いを意識しながら、合唱する。 ○全員で副次的な旋律を歌うことを伝える。 ○発声の仕方を意識するように声をかける。 ・感じたことや気付いたことの振り返りをワークシートに記入する。	③技 (記述・発言・聴取)		
	第5時 (本時)	○「思い出のメロディー」を合唱する。 ○イの部分の表現の工夫を考える。 ・個人で考える。 ・グループで歌い方を話し合い、歌い試す。 ○学級全体で共有する。 ○表現の工夫について考えたことを生かして、全員で2部合唱をする。 ☆[旋律 強弱 音の重なり]	・発声や曲想の違いを意識しながら、合唱する。 ○タブレットに伴奏と副次的な旋律を入れていることを伝える。 ・歌い試しながら表現の仕方を考え、深めていく。 ○音程に自信をもてない児童がいたら、副次的な旋律を弾き補助をする。		②思 (記述・発言・演奏聴取)	

第6時	○ウの部分の曲想を生かした表現の工夫を考える。 ・個人で考える。 ・グループで歌い方を話し合い、歌い試す。 ○話し合ったことを学級全体で共有する。 ○録音をして、歌い方がどのように変化したかを比べる。 ○本時の学習を振り返る。 ☆[旋律 強弱 音の重なり]	○ワークシートを見ながら振り返りをするように伝える。 ○タブレットに伴奏と副次的な旋律を入れているので、活動の際には使うとよいことを伝える。 ・歌い試しながら表現の仕方を考え、深めていく。 ○考えた曲想を生かした表現の工夫ができているかを意識しながら聴くように声をかける。 ・感じたことや気付いたことをワークシートに記入する。			 ①（記述・発言・聴取）
-----	---	--	---	---	--

6 本時の指導（5/6）

（1）本時の目標

音の重なりなどに気を付けて、**イ**の曲想の違いを生かした歌い方を工夫する。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆[音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)]	○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動を行う。 ・リズム、発声の体操を行う。 2 前時までの復習をする。 ・前時に書いたワークシートを共有しながら、アの曲想について確かめる。 3 「思い出のメロディー」を歌う。 4 本時の目標を知る。	○拍を意識して隣の人の肩を叩くことや、響くような声で発声するように声かけを行う。 ○アの曲の感じの違いを想起させる。 ・ワークシートをもとに、それぞれの曲想の違いを振り返る。 ○歌詞や曲想を確認しながら、4分の4拍子の流れにのって歌う。 ・確認した曲想の違いを意識して歌っている。
曲想の変化を感じ取り、それを生かした歌い方を工夫しよう。	
5 個人でイの部分をどう歌いたいと考え、ワークシートに記入する。 《予想される児童の考え》 ・曲の山だから強く歌いたい。 ・「ここーろのときめきをー」の前が mp だからその前のいつまでもを弱く歌いたい。 ・曲の山で、2つのパートになるから盛り上げて歌いたい。	○前時にワークシートに記入した曲想を生かして考えることを伝える。

- 6 グループに分かれ、それぞれが考えたことを話し合い、歌い試す。

《予想される児童の考え》

- ・「なつの一ひの」は旋律が上がっていくから盛り上げて歌いたい。
- ・「いつまでも」が繰り返されているからていねいに落ち着いた感じで歌いたい。
- ・「ここーろのときめきをー」はクレシェンドでウにつながるからのびやかに歌いたい。

- 7 各グループの考えた工夫を発表し、全体で共有する。
- ・実際に意見の多かった曲想で歌ってみる。
 - ・強弱や歌詞にも着目して歌ってみる。

- 8 1番から最後まで通して歌唱する。

- 9 本時の振り返りをする。
- ・学習で感じたことをワークシートに記入する。

- 友達と考えを伝え合いながら歌い試していくことで、イの曲想を生かした表現をどのようにしていくかを明確にできるようにする。
- ・図形楽譜や掲示物を見て、話し合いを進められるようにする。
 - ・タブレットの音源に合わせて歌い試すようにする。

- 全体でそれぞれのグループの考えたことを発表し共有することで、歌詞からどのような表現方法がよいのかを理解できるようにする。
- 呼吸や発音などにも気を付けて、互いの声部や伴奏を聴き合いながら二部合唱を行うように声をかける。

【視点2】

◇音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

(思考・判断・表現)

<記述・発言・聴取>

- 全体で共有した曲想を生かした歌い方を意識してできるように声をかける。

- 本時の振り返りをさせる。
- ・グループごとに曲想の変化を感じ取って表現した合唱を、次時の学習にも生かせるように声をかける。

【視点3】